



## run コマンド

---

- [run cuc\\*](#), 1 ページ
- [run loadcsv](#), 7 ページ
- [run loadxml](#), 7 ページ
- [run sql](#), 8 ページ
- [run pe sql](#), 9 ページ

### run cuc\*

#### run cuc dbquery

このコマンドは、SQL クエリを実行し、結果を表示します。

**run cuc dbquery** *database\_name sql\_query* [page]

## 構文の説明

パラメータ	説明
<i>database_name</i>	<p><i>sql_statement</i> が動作するデータベースを指定します。</p> <p>(注) データベース名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。</p> <p>Connection のデータベースには、以下が含まれています。</p> <p>unitydirdb : ディレクトリと設定データを含みます。</p> <p>unitydyndb : Connection が内部的に使用する動的なデータを含みます。</p> <p>unitymbxdb1 から unitymbxdb5 : 対応するメールボックスストア内の現在の音声メッセージに関するデータを含みます。このデータには、ファイルシステム内に格納されている音声ファイルへのポインタも含まれます。構成済みのメールボックスストアが1つだけの場合、メールボックスストアデータベースの名前は常に unitymbxdb1 になります。</p> <p>unityrptdb : 監査ログ データを含みます。</p>
<i>sql_query</i>	実行する SQL クエリを指定します。
<b>page</b>	<p>出力を一度に 1 ページずつ表示します。</p> <p>(注) <b>page</b> では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。</p>

## コマンドモード

管理者 (admin:)

## 使用上のガイドライン

csp\_ConfigurationModify プロシージャを指定した **run cuc dbquery** コマンドを使用して、ブラインド転送待機呼び出しタイマーを設定することもできます。このタイマーに対してコマンドを使用する方法は次のとおりです。

```
run cuc dbquery unitydirdb execute procedure
csp_ConfigurationModify (pFullName='System.Telephony.WaitForBlindTransferLongTimeoutMs', pvalueLong="new
value"
```

ここで、*newvalue* は、ブラインド転送待機呼び出しタイマーパラメータの値を示します。このパラメータのデフォルトの最小値は 500ms です。このパラメータの最大値は 5000ms です。

•

**要件**

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Cisco Unity Connection

**例**

次の例は、SQL クエリ `select alias from vw_usertemplate` を `unitydirdb` データベースに対して実行します。

```
admin: run cuc dbquery unitydirdb select alias from vw_usertemplate
```

```
alias
```

```
-----
```

```
AdministratorTemplate
```

```
VoiceMailUserTemplate
```

## run cuc preupgrade test

このコマンドは、システムをアップグレードする前に、アップグレードプロセスが実行される Connection サーバの状態を確認し、実行可能なアクションを指定します。

**run cuc preupgrade test**

---

**コマンドモード**

管理者 (admin:)

---

**使用上のガイドライン**

なし

**要件**

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Cisco Unity Connection のみ。

**例**

```
admin:run cuc preupgrade test
```

```
=====
```

```
DISCLAIMER ::
This cli command should be executed from publisher before upgrade to
check system health. This cli command is not intended to correct the
system state , rather it aims at informing the administrator what all
actions are advised to be taken before running upgrade.
```

```

=====
Checking connection db. Please wait...Done
Checking critical services. Please wait...Done
Checking cluster state. Please wait...Done
Checking cop file installation. Please wait...Done
Checking locales installation. Please wait...Done
Checking drs backup history. Please wait...Done
=====
R E P O R T   C A R D
=====
Locales Installation Test: PASS
Connection DB Test: PASS
DRS Backup History Test: FAIL
Cluster State Test: SKIPPED
Critical Services Test: PASS
Cop File Installation Test: SKIPPED
=====
A C T I O N   S U M M A R Y
=====
ACTION : Connection DB is online.
        NO constraints were found disabled in :unitydirdb,NO ACTION required before upgrade.

        NO indexes were found disabled in :unitydirdb,NO ACTION required before upgrade.
        NO constraints were found disabled in :unitydyndb,NO ACTION required before upgrade.

        NO indexes were found disabled in :unitydyndb,NO ACTION required before upgrade.
        NO constraints were found disabled in :unitymbxdb1,NO ACTION required before
upgrade.

        NO indexes were found disabled in :unitymbxdb1,NO ACTION required before upgrade.
        NO constraints were found disabled in :unityrptdb,NO ACTION required before upgrade.

        NO indexes were found disabled in :unityrptdb,NO ACTION required before upgrade.
        Connection DB state is GOOD,NO ACTION required before upgrade.
ACTION : All Critical services are running ,NO ACTION required before upgrade.
ACTION : Standalone/Cores detected , excluding cluster state checking
ACTION : Skipping COP installation check, product version detected :'8.6.2.21018-1',NO
ACTION required before upgrade.
ACTION : No locales were found installed ,NO ACTION required before upgrade.
ACTION : Make Sure DRS backup is taken atleast a day before upgrade.
Check report /var/log/active/cuc/cli/preupgrade_120325-224523.txt for details.

```

## run cuc smtpstest

このコマンドは、SpeechView トランスクリプションの SMTP 送受信設定を確認するのに役立つテストを開始します。

**run cuc smtpstest** *email-address*

### 構文の説明

パラメータ	説明
<i>email-address</i>	電子メールアドレスを指定します。

### コマンドモード

管理者 (admin:)

## 使用上のガイドライン

このテストによって、指定された電子メールアドレスにテストメッセージが送信されます。次に、ユーザはその電子メールアカウントにアクセスし、件名を変更せずにテストメッセージに返信します。テストは、Cisco Unity Connection サーバが応答を受信すると成功します。テストが成功または失敗した部分が変わることにより、トランスクリプションの SMTP 送受信設定の問題特定に役立ちます。

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Cisco Unity Connection。

### 例

次の例では、Sysagent タスク CleanDeletedMessagesTask が実行されます。

```
admin: run cuc sysagent task CleanDeletedMessagesTask
```

## run cuc sysagent task

このコマンドは、Sysagent のタスクを実行します。

```
run cuc sysagent task task_name
```

### 構文の説明

パラメータ	説明
<i>task_name</i>	実行する Sysagent タスクの名前を指定します。

HTTP(S) ネットワークでは、ディレクトリの同期 (Data.LocalNetworkSync) タスクと音声名の同期 (Data.LocalNetworkSync.Voicename) タスクを実行するコマンドに、パラメータとして HTTP(S) リンクの表示名を指定する必要があります。構文は次のとおりです。

```
run cuc sysagent task task_name HTTP(S)LinkDisplayName
```

次の例は、Data.LocalNetworkSync タスクを実行します。

```
admin: run cuc sysagent task Data.LocalNetworkSync HTTP(S)LinkDisplayName1
```

```
Data.LocalNetworkSync started
```

ここで、HTTP(S)LinkDisplayName は、ディレクトリ情報を同期するために使用する HTTP(S) リンクの表示名です。



(注) 同期での問題を回避するために、コマンドを実行する前に、指定した HTTP(S) リンク「HTTP(S)LinkDisplayName」に対してスケジュールされたディレクトリまたは音声名の同期タスクがディセーブルになっていることを確認してください。

#### コマンドモード

管理者 (admin:)

#### 使用上のガイドライン

Sysagent タスクをリストするには、**show cuc sysagent task list** (Cisco Unity Connection のみ) を実行します。sysagent タスク名では、大文字と小文字が区別されることに注意してください。

#### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能

適用対象 : Cisco Unity Connection

#### 例

次の例では、Sysagent タスク `Umss.CleanDeletedMessagesTask` が実行されます。

```
admin: run cuc sysagent task Umss.CleanDeletedMessagesTask
```

```
Umss.CleanDeletedMessagesTask started
```

## run cuc vui rebuild

このコマンドは、音声認識転送ユーティリティに対して、確定前の変更を使って音声認識名の文法をただちに再構築するように指示します。

#### run cuc vui rebuild

#### コマンドモード

管理者 (admin:)

#### 使用上のガイドライン

このコマンドは、データベース内で変更のフラグが付けられている文法だけを再構築します。このコマンドでは、名前の文法の更新ブラックアウトスケジュールは無視されます。また、このコマンドはただちに実行されます。名前に関係するデータは大量になる可能性があります。それら

をデータベースから取得するオーバーヘッドを考慮して、このコマンドの使用はできるだけ控え、どうしても必要な場合にのみ使用してください。

#### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：可能

適用対象：Cisco Unity Connection

## run loadcsv

このコマンドは、サーバ上で使用可能な csv ファイルをインストールするためにパブリッシュモードで使用されます。

### run loadcsv

---

#### コマンドモード

管理者 (admin:)

---

#### 使用上のガイドライン

#### 要件

コマンド特権レベル：1

アップグレード時の使用：不可

適用対象：Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

## run loadxml

このコマンドは、サービスのパラメータまたは製品固有の情報が、意図したとおりに管理ウィンドウに表示されない場合の回避策です。

### run loadxml

---

#### コマンドモード

管理者 (admin:)

## 使用上のガイドライン



- (注) このコマンドを実行すると CPU に負担がかかります。また、このコマンドの実行後に一部のサービスを再起動する必要がある場合があります。

### 要件

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 不可

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection

## run sql

このコマンドを使用すると、SQL コマンドを実行できます。

**run sql** *sql\_statement*

### 構文の説明

パラメータ	説明
<i>sql_statement</i>	実行する SQL コマンドを指定します。

### コマンドモード

管理者 (admin:)

### 要件

コマンド特権レベル : 0

アップグレード時の使用 : 0

適用対象 : Unified Communications Manager、Unified Communications Manager の IM and Presence サービス、Cisco Unity Connection



- (注) 通常の特権を持つユーザは、読み取り専用の SQL コマンドを実行できます。



**例**

この例では、SQL コマンドが実行されます。  
 admin: run sql select name from device

## run pe sql

このコマンドを使用すると、指定した Presence データストアに対して入力 SQL 文を実行できます。

**run pe sql** *datastore\_name* *sql\_statement*

**構文の説明**

パラメータ	説明
<i>datastore_name</i>	データ ストアの名前を表します。
<i>sql_statement</i>	実行する SQL コマンドを表します。

**コマンドモード**

管理者 (admin:)

**使用上のガイドライン****要件**

コマンド特権レベル : 1

アップグレード時の使用 : 可能


適用対象: Unified Communications Manager の IM and Presence サービス



(注) 通常の特権を持つユーザは、読み取り専用の SQL コマンドを実行できます。

**例**

この例では、データストアに対して SQL コマンドが実行されます。  
 admin: run pe sql ttsoft select \* from presenceeventtable

 run pe sql